

令和元年度冬季特別展覧会
「お姫さまの婚礼道具」
鑑賞ガイド



Copyright ©2020 Yatsushiro Municipal
Museum All Rights Reserved

各ページに掲載写真の無断転載を禁じます。

特別展覧会「お姫さまの婚礼道具」展 開催概要

江戸時代、大名家など上級武家の姫君がお嫁入りするときは、その家格にふさわしい婚礼道具が調えられました。婚礼の儀式に不可欠な貝桶をはじめ、化粧道具や文房具、香道具など、姫君の生活に必要なさまざまな品がそろえられ、大名家ともなると金銀蒔絵をほどこしたものが準備されました。

旧八代城主松井家には、多くの婚礼道具が伝来しています。いずれも蒔絵をほどこした豪華なもので、松井家の家格の高さをうかがうことができます。今回の展覧会では、松井家伝来の婚礼道具に夫人たちゆかりの品々を加えた85点を展示します。



1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ
(1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 1揃

展示されている婚礼道具を紹介していきます。



婚礼道具のシンボリック的存在 貝桶 1対

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 揃

出貝と地貝に分け、対となる貝を見つけて遊びます。

対となる貝は1組しかないので、婚礼道具のシンボルに！



九曜紋のついた貝桶覆と合貝が付属している。

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

厨子棚、黒棚、
書棚で「三棚」と
呼ばれます。
蒔絵で全面を覆
われた豪華さに
圧倒されます。



厨子棚



青字は未展示品です。

黒棚

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 1揃

12個の小箱を
収めるのでその
名があります。
白粉や鏡を入
れる箱が入っ
ています。

十二手箱



1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

「すみあかてばこ」と呼ばれます。箱の角(すみ)が赤いのでその名があります。



大角赤手箱



小角赤手箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

櫛の齒に粗密があるのは、髪を解いたり、梳いたり、なでつけたりする用途によって変えているからです。



払箱

元結箱

櫛箱

解櫛 ときぐし



梳櫛 すきぐし



撫櫛 なでぐし



1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

お化粧にとって
「眉」は重要ポイント！今も昔も同じですね。



眉作箱

剃刀箱



油桶

白粉入



化粧水入

眉墨入

剃刀の柄

1. 松井家伝来の婚礼道具

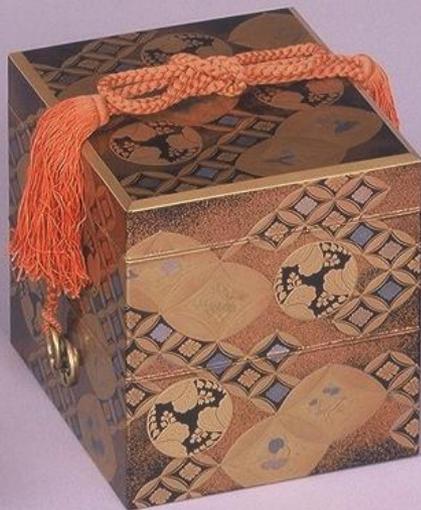
しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

お歯黒をするための道具を入れる箱です。洗
いお歯黒のあとは昆布をなめて
お口直し。

青字は未展示品です。



渡金箱



歯黒箱



昆布箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

(1) しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

香を焚くための
道具です。



沈箱

匂箱

香匙火箸台



香炉箱

炭団箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 揃

さまざまな大きさの紙などを入れる箱です。

青字は未展示品です。



色紙箱

畳紙箱

水引箱

短冊箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

(1) しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

和歌や手紙を書く道具と手紙(文・ふみ)を入れる箱。



長文箱

小文箱



料紙箱・硯箱(料紙硯)

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ
(1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具 1揃



脇息

匂枕



乱箱



中に香を入れる
ことができる枕。
アロマ効果でリ
ラックス♪

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具の意匠 いしょう



銀の梨子地粉を蒔いた叢梨子地に大小の七宝文を配したもので、大きな七宝文の中には、鶴・兎・鹿・犬、桜・藤・芍薬・椿・菊・水仙・南天など、多種多様な動植物文が入れている。

小さな七宝文には、色合いの異なる花菱文を入れた変化に富んだ意匠である。

「七宝文・しっぽうもん」と呼ばれる文様です。

金の粉のように見えますが銀の粉を蒔いています。粉を蒔いた状態が「梨」の肌似ているので、梨子地と呼ばれます。

各道具は、このような墨書のある布に包まれ、それぞれ箱に入っています。



包布の墨書「しっぽうおりくずしきりもん御小文はこ」

1. 松井家伝来の婚礼道具

しっぽうおりくずしきりもんまきえこんれいどうぐ (1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具

揃

膨大な数にのぼる七宝文の中には、「一つとして同じ図柄がない」といえるほど多様な図柄が入っています。



七宝の中に多種多様な動植物文様があらわされている

1. 松井家伝来の婚礼道具

わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ
(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 揃



十二手箱

こちらは、黒漆地の一揃いです。金地の道具も豪華ですが、こちらの意匠もシックで美しいですね。



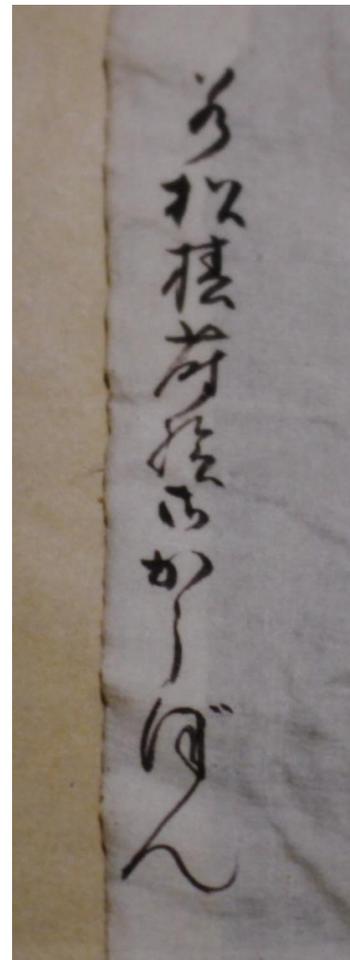
1. 松井家伝来の婚礼道具

(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ の いしょう 意匠



黒漆地に土坡に生える若松と椿を表し、金銀の高蒔絵、平蒔絵と絵梨子地により色合いに変化をつける。

付描や描割、蒔暈など、蒔絵の手法を駆使した細やかな表現が見どころである。



包布墨書「若松椿蒔絵 御かうぼん」

1. 松井家伝来の婚礼道具

(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 | 揃

わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ

青字は未展示品です。



書棚

1. 松井家伝来の婚礼道具

わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ
(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 1揃



小角赤手箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ
(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 1揃



短冊箱 水引箱

硯箱

色紙箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

わかまつつばききりもんまきえこんれいどうぐ
(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 揃

香盆



炭団箱

香合 焚殻入 香炉

1. 松井家伝来の婚礼道具

(1) (2) は桐紋が同じことから揃いである。



2013年松浜軒大広間に一堂
に展示したことがあります。
壮観でした。



1. 松井家伝来の婚礼道具

(3) みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃

3組目のお道具
です。厨子棚、黒
棚にこのように箱
を収納して飾られ
ました。



厨子棚飾り



黒棚飾り

1. 松井家伝来の婚礼道具

(3) みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃



こちらも合貝とセットで残っています。

貝桶・合貝

1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃

十二手箱

小角赤手箱

大角赤手箱



1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃



匂箱



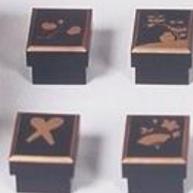
香箱



沈割香箱



沈香箱



香鋸 香鉈 香割刀 香鑿 香槌 羽箒

1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 | 揃

櫛台

鏡建・鏡家

払箱

元結箱

櫛箱



1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 揃

手拭掛

耳盥・台輪

盥・湯桶

嗽椀・台



歯黒箱

楊枝箱

剃刀箱

渡金箱

鉄漿箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃

見台

硯箱・料紙箱（料紙硯）

文台・硯箱（文台硯）

大文箱 小文箱

長文箱

小文箱



1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃



煙草盆

昆布箱 水引箱 守箱

1. 松井家伝来の婚礼道具

みつざさもんからくさ まきえ こんれいどうぐ
(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 1揃



薬箆笥 薬茶椀・薬台
薬計 薬溜 薬鍋



衣桁

広蓋



2004年秋季特別展「武家の婚礼」展 展示風景

1. 松井家伝来の婚礼道具

くようきりもんまきえひなどうぐ (4) 九曜桐紋蒔絵雛道具 | 揃 (松浜軒に展示)



2004年秋季特別展「武家の婚礼」展 展示風景

1. 松井家伝来の婚礼道具

まとめ その1



本展と松浜軒の展示をみることで、松井家に伝来する婚礼道具を概観できる。100種以上の婚礼道具を一度に見ることができるとなない機会。



梨子地高平蒔絵・黒漆地高平蒔絵・黒漆地平蒔絵という格が異なる3種の婚礼道具を一度に見ることができるとなない機会。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

まきえ

(1) 蒔絵とは

次に蒔絵の技法についておさらいしてみましょう。

漆器の表面に漆で絵や文様を描き、漆が乾かないうちに金や銀の金属粉を「蒔く」ことで漆面に定着させる技法。

- ・平蒔絵
 - ①絵漆で文様を描く。
 - ②金粉を蒔き付ける。
 - ③文様の上を磨いて仕上げる。
- ・高蒔絵
 - ①絵漆で文様を描く。
 - ②炭粉、錫粉、錆漆、地粉などを用いて文様部分を盛りあげる。
 - ③炭粉を研ぐ。
 - ④高上げ漆でさらに盛り上げる。
 - ⑤金粉を蒔き付ける。
 - ⑥文様の上を小さな炭で研いで仕上げる。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(2) 蒔絵で線を表す技法

- ・**描割** (かきわり)・・・文様を線書きしたあと、輪郭線の部分だけを残して地塗りする(線の部分に金粉が定着しない)。
- ・**針書** (はりかき)・・・平蒔絵を行った後で、葉脈など細部の線を針のように尖ったもので描く技法。より精細な表現が可能だが、修正が効かず、失敗は許されない。
- ・**付描** (つけがき)・・・蒔絵の上に、葉の輪郭線など細部を、粘り気の強い絵漆で描き、そこに金銀粉を蒔き付ける技法。文様がくっきりと浮かび上がり、奥行きのある表現ができる。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

七宝折崩



蒔絵の技法を知ったあとに作品を見ると、これらの制作にいかにか手間暇がかかったがわかりただけだと思います。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



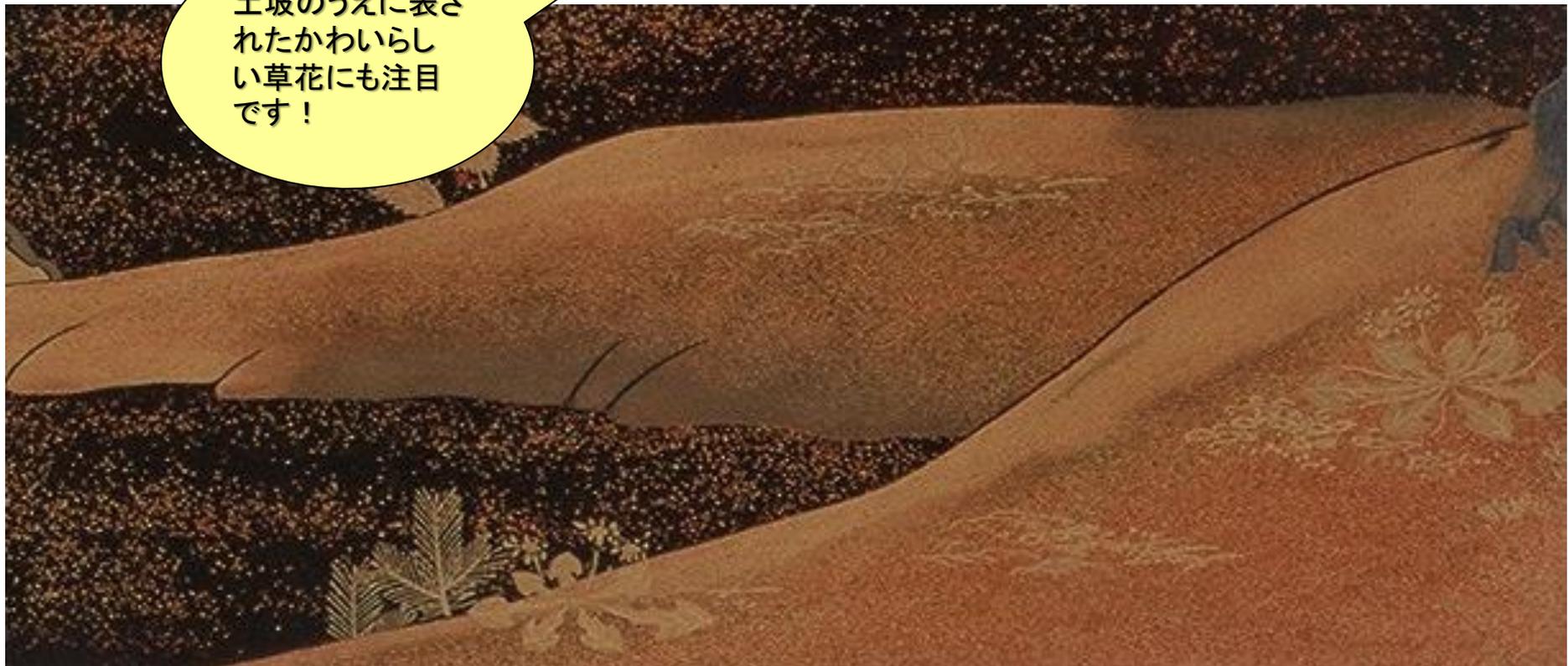
2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



土坡のうえに表されたかわいらしい草花にも注目です！



2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(3) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具の銀粉使用



制作当初はもっと黄金色だった。

銀粉の酸化により黒ずんでいるが、制作当初は、漆に覆われ、金粉より仕上がりが明るめの色合いとなり、華やかさが求められる婚礼道具にふさわしいとして多用された。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(4) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具の家紋の表現



3つの家紋を並べてみました。違いがわかりますか？

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



紋を平蒔絵で
あらわす

葉脈を付描

葉境を黒漆の
線であらわす

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



紋を平時絵
であらわす

葉脈を付描

葉境を針書
であらわす

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



紋を高蒔絵
であらわす

葉脈を付描

葉境を描割
であらわす

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(4) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具の家紋の表現



貝桶 長文箱 鏡建 守箱
十二手箱 鉄漿箱 渡金箱
耳盥・台輪 薬茶碗 嗽椀
煙草盆 剃刀箱 薬台
広蓋 大・小角赤手箱
湯桶 櫛台 など

小文箱 香箱 昆布箱
葉黒箱 楊枝箱 沈香箱
文台 匂箱

など

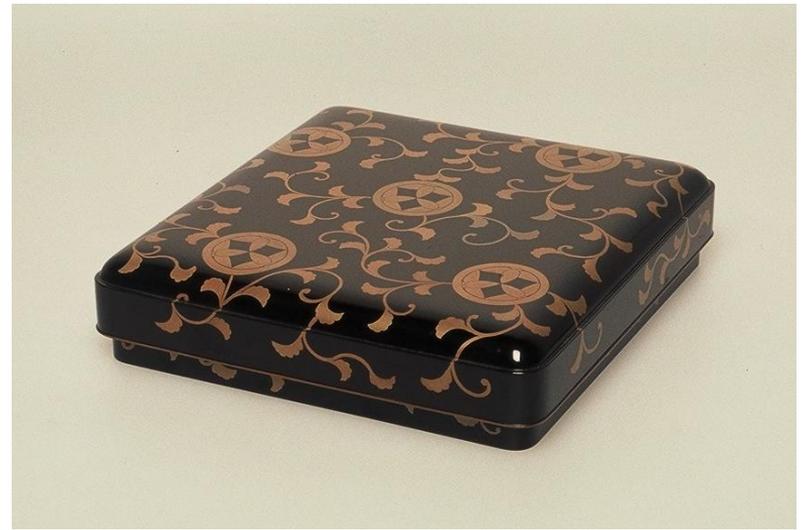
大文箱 鏡家 盥
手拭掛 櫛箱 薬筆筒
元結箱

など

家紋の表現技法の違いから、3つのグループに分けることができます。

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(5) ミツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具の木地流用



料紙箱・硯箱

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



このあたりに
木の枝が！

よっほど急
いでいたの
でしょうね。

黒漆地の下に、別の図柄（松樹？）が見える（木地が足りず転用したか？）

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法



このあたり
にも！

2. 婚礼道具にみる蒔絵の技法

(4) (5) よりうかがえる

三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具の制作現場



少なくとも3つの班または工房で制作したことがうかがえる(仕様が不統一)



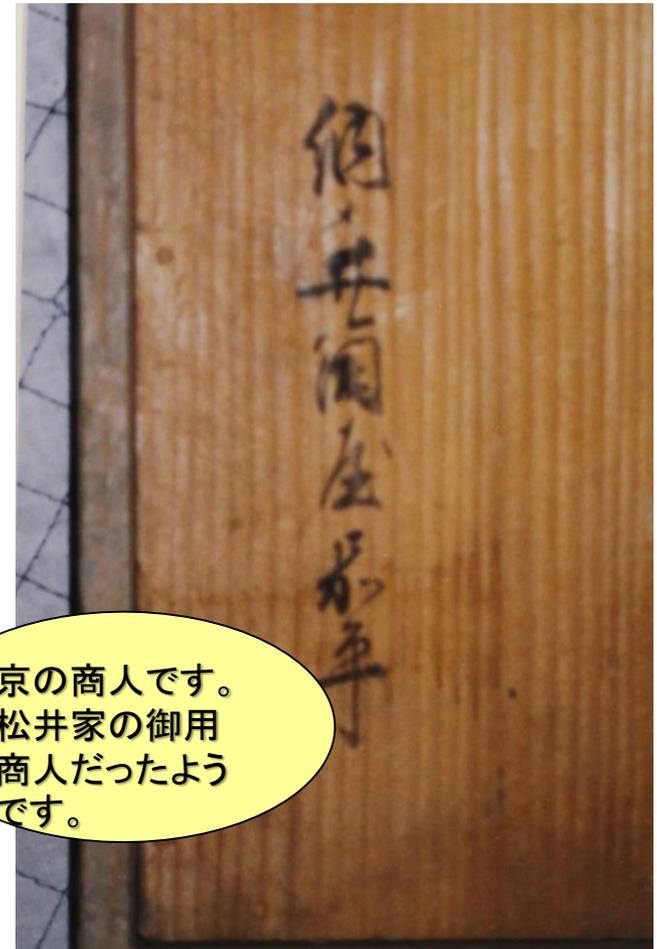
作りかけの別作品の木地を転用している(納期に間に合わせるためか?)



納品者は「井筒屋嘉平」

京の商人です。
松井家の御用商人だったようです。

箱の底に墨書



3. 散逸する婚礼道具

今回展示されていない松井家の婚礼道具から、その伝存状況を見てみましょう。

三ツ笹紋蒔絵眉作箱

(松井文庫所蔵・未展示)



本品は、黒漆地に二種の三ツ笹紋のみを蒔絵した簡素なもので、もとは婚礼道具の一具であったと思われる。日常的にはこうした簡素な道具を用いていたものであろう。

武家の女性は、懐妊、もしくは相当の年齢に達すると眉を剃り、正月三ケ日や節供などの式日には眉を描く決まりであったという。

3. 散逸する婚礼道具



丸に三引紋蒔絵広蓋

(松井文庫所蔵・未展示)

丸に三引紋は、近江国大溝藩主分部家の家紋で、松井家には2人の女性が嫁いできている。松井家7代 宮之の継室テル(1753~1808)と、八代 徴之の次男 存之の夫人 恵茂(文化5年・1808来代)である。

橘蒔絵手拭掛・橘に亀甲繫文蒔絵広蓋

(松井文庫所蔵・未展示)

同意匠で、手拭掛、広蓋、眉箒のみ残る

もとはたくさんの種類からなる婚礼道具の一つだったと思われませんが、今は1、2点ずつしか残っていません。



3. 散逸する婚礼道具

くよう くぎぬき もんまき え げんじ だんす 九曜釘抜紋蒔絵源氏筆筥

未展示品

江戸時代中期 松井文庫所蔵



釘抜紋は、細川家世襲3家老家（松井・有吉・米田）の一つ米田家の家紋。細川家と米田家ゆかりの品であることがわかる。→ なぜ松井家に？

→ 米田是福の娘久美（1745～65）が、松井家7代目営之に嫁いでいる。

→ 久美の母は藩主細川宗孝の妹衛世姫である。→ 衛世姫の婚礼道具を娘が譲り受け、婚礼道具として持参したものではないか。



3. 散逸する婚礼道具



いづれの通村ふる女道天衣あまのこころ
ひびくささつふいやむもまもまもふあ
ぬすくれてとまはははありなり初
で我れと世ありはつてはつてあまの
ふゆふゆめりはははははははははは
利下らうの衣もそら海てやすうふあ
さたりまつふつても人の心をさか
恨をおつよりやまなんはあつて

表紙



細川家ゆかりの品だけに
蒔絵の質が高い。

内容品（源氏物語）も全巻
揃っている。

3. 散逸する婚礼道具

かげひなた く ようもん まきえ こんれいどうぐ 陰日向九曜紋蒔絵婚礼道具

未展示品

江戸時代後期 島田美術館蔵

島田美術館には、細川忠興の息子興孝を祖とする細川家一門の刑部家資料が残る。本道具の箱には、松井家の家紋があり、刑部家8代興禮に嫁いだ松井家8代微之の娘美屋の婚礼調度と思われる。文化6年（1809）婚礼。



3. 散逸する婚礼道具

◇古文書に見る婚礼道具 (熊本大学付属図書館蔵松井家文書)

・3代寄之娘国と山名重澄の婚礼 17世紀

婚礼道具について「黒ぬりさゝ丸からくさまきえ」の記載

・6代豊之と細川利昌娘ふうの婚礼 享保19年(1734)

「御厨子壺飾、黒棚壺飾、長持五棹、屏風壺双、小屏風壺双」「貝桶壺荷」

・7代宮之と米田是福娘久美の婚礼 宝暦13年(1763)

「御厨子一飾、黒棚一飾、御箆筥一棹、御長持十棹、御琴一丁」など

・6代豊之娘美恵と米田是知の婚礼 安永5年(1776)

「御箆筥三棹、御長持五棹、御琴一面、御衣桁一領、御屏風一双」

・7代宮之娘古宇と長岡刑部興禎の婚礼 天明4年(1784)

「長持三棹、箆筥二棹」「御厨子、黒棚、御琴、御衣桁、御行器、差樽」など

・8代徴之娘利代と松井(古城家)義之との婚礼 文化7年(1810)

「御貝桶、御長持四棹、御箆筥二棹、御厨子一飾、黒棚一飾、御琴」など

・8代徴之娘満喜と郡真紹との婚礼 文化8年(1811)

「御貝桶、御長持、御箆筥二棹、御厨子一飾、黒棚一飾、御琴」など

松井家当主の結婚や娘たちの婚礼のたびに、たくさんの道具が準備されたことがわかります。

3. 散逸する婚礼道具

(1) 七宝折崩桐紋蒔絵婚礼道具と(2) 若松椿桐紋蒔絵婚礼道具は 厨子棚、黒棚、書棚及び長持1棹分



古文書に見る婚礼道具の数量はもっと多かったことがうかがえる。



現在展示している婚礼道具を収めた箱の数々です。箱だらけ！

(3) 三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具は 厨子棚、黒棚及び長持2棹分

3. 散逸する婚礼道具

◇細川家の女性の遺品が松井家に伝存する事例



伊勢物語絵巻 (松井文庫所蔵・未展示)

箱蓋表墨書「文政十年九月二日／梅珠院様

御遺物拝領／伊勢物語 守親筆」

同貼紙墨書「五拾参號／伊勢物語 二卷入／笹御紋
御嫁入道具入込ノモノ／笹御紋御嫁入道具入込ノモノ」
落款「守親」 印章「幽知」(朱文方印)

細川家10代齐兹娘考・梅珠院(1823~1826)

文政10年(1827)拝領

源氏時絵煙草盆 (松井文庫所蔵・未展示)

箱蓋裏墨書「文久二年戌四月」

同貼紙墨書「蓮性院様／御多葉粉盆／御遺物」

細川家11代齐護夫人紀・蓮性院(1785~1861)

文久2年(1862)拝領



3. 散逸する婚礼道具

まとめ その2



婚礼のたびにたくさんの婚礼道具が作られたと思われるが、母から娘へ譲られたり、遺品として形見分けされたりして、その多くが散逸している。



にもかかわらず、現在、これだけの婚礼道具が残っているのはたいへん貴重である。

4. 婚礼—細川家・松井家の場合

細川家に来た最も有名な女性

細川家、松井家に嫁いできた女性たちのことをみていきましょう。

ただおき がらしゃ
細川家2代目忠興の妻・玉（伽羅奢）

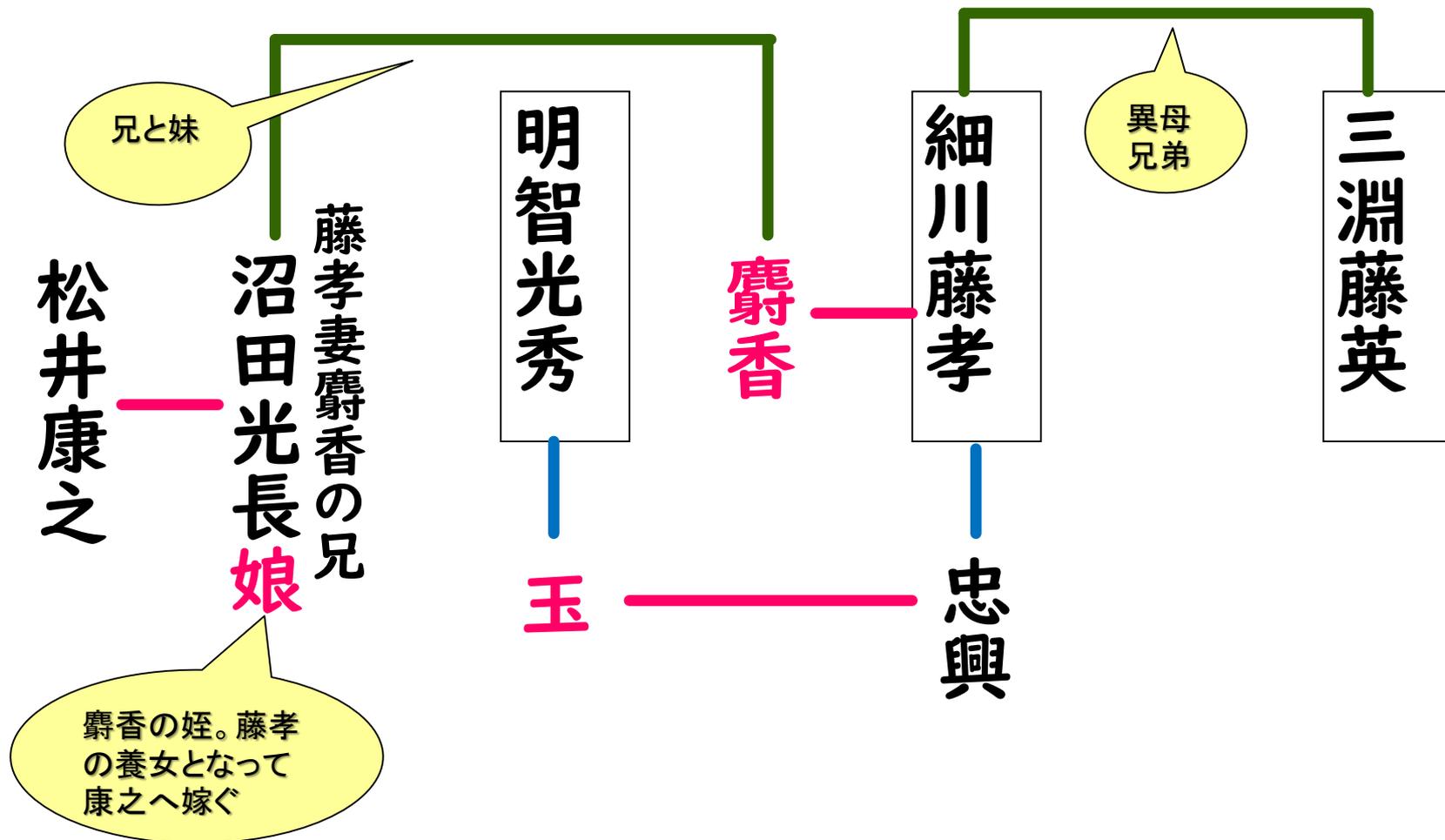
天正2年（1574）正月、織田信長により、明智光秀の娘を娶るよう命じられる。このとき忠興・玉とも12歳。天正6年（1578）8月、青竜寺城で婚礼が執り行われた（16歳）。翌年、長女が生まれる。

明智家と細川家が固く結ばれる

婚姻による関係強化を目的とする

政略結婚とも呼ばれる所以です。

NHK大河ドラマ“麒麟がくる”に見る 細川家周辺の婚姻関係



に記された忠興の婚礼の様子

(天正6年8月・1578年)

光秀甚悦之、藤孝君・忠興君も家門の

面目と御悦不斜、同月青竜城にて御婚

礼有、十六歳^二而御夫婦御同年也

御前様御名お玉様、後^二伽羅奢様と云、

御母八妻木勘解由左衛門範熙女也、

明智左馬助御輿に附来り、松井康之請

取之、此時御祝言の御座敷八畳敷と次

の間六畳敷計也、

後^二米田助右衛門女を牧左馬允^二被遣

て、忠興君より御仕立被成候時、女房

乗物三挺也、其時の御咄に、当世は物

事結構^二成たり、我か妻^八日向守娘に

て丹波一国^二江州志賀一郡知行する

分限にて女房乗物三挺^に而来し也、今

又助右衛門娘も同し乗物数にて嫁入

をする事よと被仰候、

NHK大河ドラマ“麒麟がくる”に見る 細川家周辺の婚姻関係

各場面がドラマ中の大きな見せ場になると予想されます。

松井康之

1565年
永禄の変
足利義輝暗殺される
康之父を失う

沼田光長娘

藤孝妻麿香の兄

明智光秀

玉

味方せず
父子、光秀に

麿香

藤孝・忠興

1582年
本能寺の変

細川藤孝

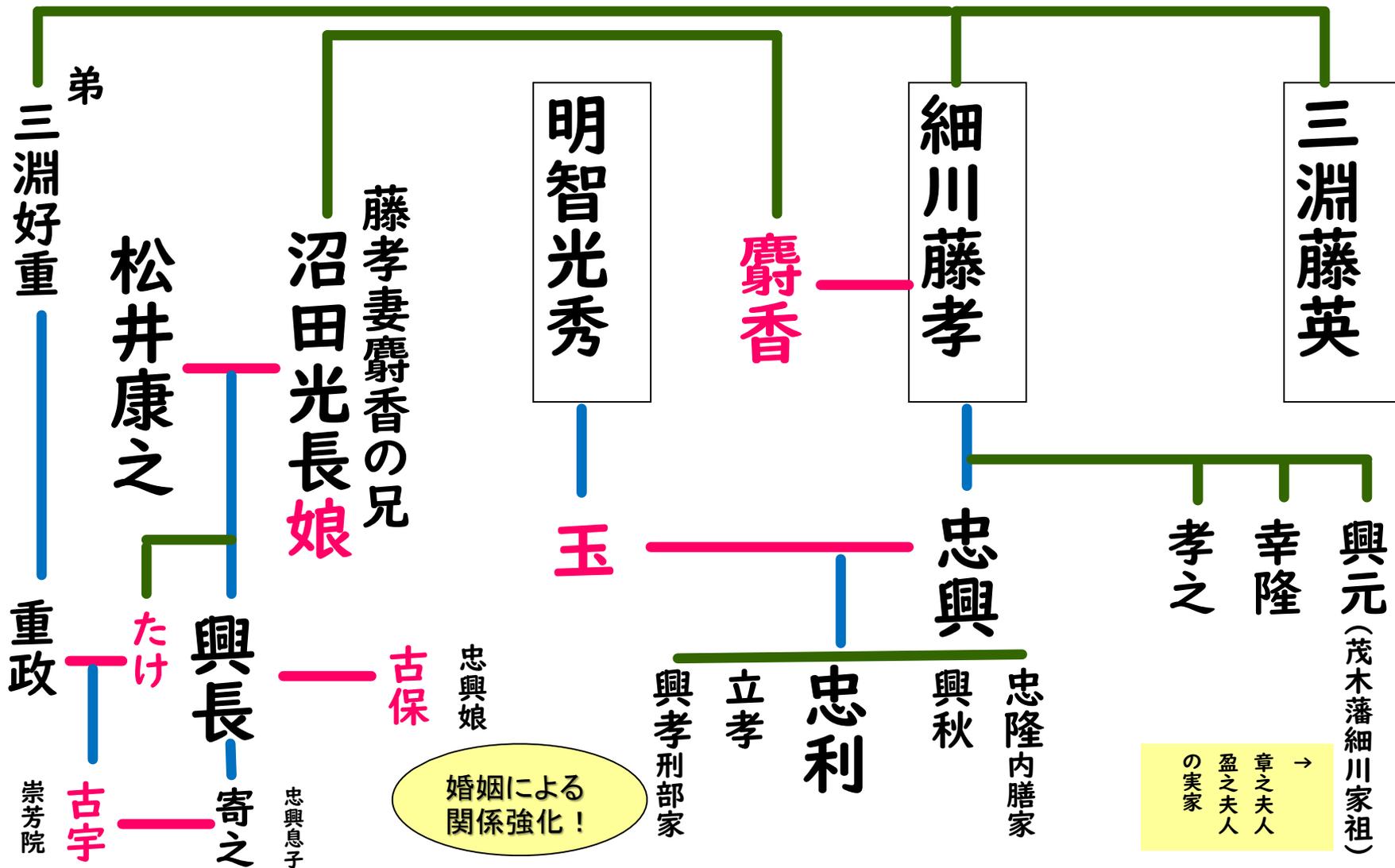
忠興

1578年婚礼
光秀甚悦之、藤孝君・
忠興君も家門の面目と
御悦不斜

三淵藤英

1574年
光秀の城で自害

NHK大河ドラマ“麒麟がくる”に見る 細川家周辺の婚姻関係



4. 婚礼—細川家・松井家の場合

細川家と松井家の関係強化

細川藤孝

麿香

麿香の兄・沼田光長の娘を藤孝の養女として松井康之に嫁がせる。光長は永禄の変で戦死。

自得院

松井康之

20歳

10歳

永禄の変のとき、2人は20歳と10歳。ともに父を失った。

永禄の変（1565）で兄を失

う。永禄12年（1569）、

自得院と婚姻し、青竜寺城下に

屋敷と食禄50俵を賜り、細川

家の客分となる。

婚礼による大名同志の結託を警戒

武家諸法度による婚姻の規制

『武家諸法度』

秀忠発布、元和元年（一六一五）

きびし〜い

- 一 諸大名は、学問と武術をみがくことにつとめなければならぬ。
- 一 大勢で酒を飲んだり遊んだりしてはいけない。
- 一 法令にそむいた者を国にかくしてはいけない。
- 一 自分の国に反逆人や殺害者がいたら、追い出さなくてはならない。
- 一 自分の領地に他国の人を住まわせてはならない。
- 一 城を修理するときでも届けなければならぬ。
- 一 新築することはかたく禁止する。
- 一 となりの国でなにか変わったことをしようとしていたりする者がいたら届けなければならぬ。
- 一 諸大名は、幕府の許可がないのにかつてに結婚のやくそくをしてはならない。
- 一 参勤交代のとき、決められた以上の家来をつれてきてはいけない。
- 一 服装やかざりものは、身分以上の上下のちがいをまちがえないようにすること。
- 一 身分の低い者が勝手にかごに乗ってはならない。
- 一 武士たちは、儉約につとめなければいけない。
- 一 諸大名は、能力のある者を用いてよい政治を行わなくてはならない。

- ①忠利 千代 (保寿院) 53 徳川秀忠養女 (小笠原秀政・信濃飯田藩主娘)
※家康のひ孫にあたる (母福姫は家康長男信康と信長の娘徳姫の娘)
- ②光尚 祢々 (正受院) 17 烏丸光賢娘 (※忠興の孫、母萬は忠興娘)
- ③綱利 久 (本源院) 32 松平頼重 (高松藩主・頼房長男) 養女
※実は水戸徳川頼房娘、水戸光圀の妹
- ④宣紀 (正室なし)
- ⑤宗孝 友 (静證院) 61 徳川宗直 (紀伊藩主) 娘
※「紀州の麒麟」と評された徳川治貞の姉
- ⑥重賢 由婦 (有隣院) 65 久我通兄娘・祖母は綱利の姪
- ⑦治年 埴 (瑶台院) 49 細川興文 (宇土藩主) 娘
- ⑧斉茲 八千 (惠眼院) 岩城隆恭 (出羽亀田藩) 娘
- ⑨斉樹 紀 (蓮性院) 77 一橋治済娘
- ⑩斉護 益 (顕光院) 70 浅野斉賢 (広島藩主) 娘
- ⑪韶邦 峯 59 一条忠香娘・斉茲娘が一条忠良妻
- ⑫護久 宏 69 鍋島斉正 (鍋島藩主) 娘

細川家 (54万石)

忠利	徳川秀忠養女
光尚	烏丸 (公家・名家)
綱利	松平 (御家門)
宣紀	
宗孝	紀伊 (御三家)
重賢	久我 (公家・清華家)
治年	宇土細川 (3万石)
斉茲	岩城 (外様、2万石)
斉樹	一橋 (御三卿)
斉護	浅野 (外様、42万石)
韶邦	一条 (公家、摂家)
護久	鍋島 (外様、35万石)

加賀前田家 (102万2千石)

利常	徳川秀忠次女
光高	水戸 (御三家)
綱紀	保科 (御家門)
吉徳	尾張 (御三家)
宗辰	保科 (御三家)
重熙	松平 (御家門)
重靖	紀伊 (御三家)
重教	紀伊 (御三家)
治脩	大聖寺前田
斉広	尾張 (御三家)、公家 (摂家)
斉泰	松平、前田、佐竹、将軍家
慶寧	有馬、鷹司

54万石の細川家といえども、102万石の前田家とは婚姻においても格の違いが。

細川家（54万石）

家老の松井家（3万石）

忠利	徳川秀忠養女	興長	細川忠興娘
光尚	烏丸（公家・名家）	寄之	三淵重政娘（康之孫）
綱利	松平（御家門）	直之	烏丸資慶娘
宣紀		寿之	長岡興知（刑部家）娘
宗孝	紀伊（御三家）	豊之	細川利昌（新田藩）娘
重賢	久我（公家・清華家）	宮之	米田是福（家老）娘
治年	宇土細川（3万石）		分部光命（大溝藩）娘
斉茲	岩城（外様、2万石）	徴之	有吉立喜（家老）娘
斉樹	一橋（御三卿）	督之	徴之娘
斉護	浅野（外様、42万石）	章之	細川興建（茂木藩）姪
韶邦	一条（公家、摂家）	盈之	細川興建（茂木藩）娘
護久	鍋島（外様、35万石）		

藩主と家老の格も違う。だが、他国の藩主の娘を迎えるなど、細川家中での松井家の格も高さがわかる。

細川家の結婚相手の傾向

婚礼に見る武家文化の諸相

ゴールインまでの長い道のり

- 双方の藩主が事前に内談
- 幕府へ老中を通じ、縁組願
- 幕府から許可がおりのる
- 結納・婚礼の諸準備
- 婚礼調度の運び込み
- いい日取りを選んで、入輿

■ 松井家の場合

藩主の意向により決定され、公家や他大名との縁組に際しては、藩主を通じて幕府老中へ縁組願を出し、許可を受ける。

4. 婚礼—細川家・松井家の場合

まとめ その3



家の家格にふさわしい婚礼道具をそろえる必要があった。



膨大な婚礼調度の調整=内需の拡大・国内生産力・技術力の向上。=婚礼道具は、わが国の漆工技術の高さと多様さを伝えている。



厳しい婚姻統制によって、社会秩序の維持が保たれた。=長期にわたって幕藩体制が維持。

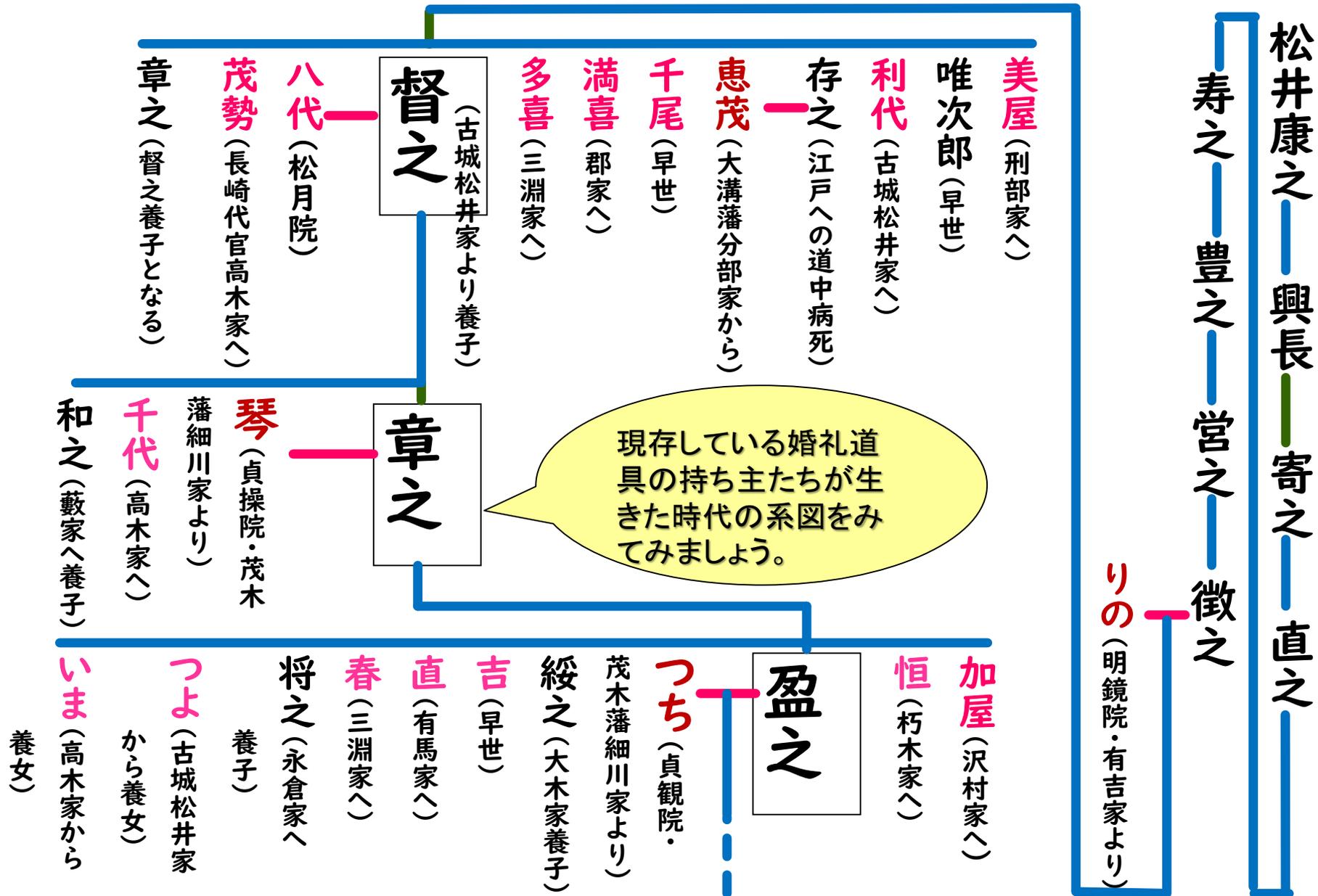


七宝折崩桐紋蒔絵・若松椿桐紋蒔絵婚礼道具 江戸時代後期 松井文庫所蔵



三ツ笹紋唐草蒔絵婚礼道具 江戸時代後期 松井文庫所蔵

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

松井家10代章之と琴姫の婚礼

もっとも関係品を多く
残す夫妻です。

「貞操院様御婚礼一式」全三冊(熊本大学附属図書館所蔵松井家文書)

■天保7年(1836)7月、章之の縁組について、
細川家12代藩主斉護より、松井誠之(古城松井家5代)
へ内意が達せられる。

■天保8年(1867)6月、松井義之(古城松井家6代、この頃
細川家用人を務める)が、長門守のところへ出向き、ご縁女
と対面。その後、義之から、松井家用人澤井清左衛門
へ次のように伝えられる。

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

細川家用人から、松井家用人へ伝えられたこと…

「先方の姫は、たいへんお美しい方である。」

しかし、すでに三十あまりになられ、眉毛をおのばしになっているのは、ことのほか不似合いである。

その上、以前婿養子がおられ、お子さんも一人お生みになつてゐる。そのお子さんはすでに亡くなつてゐるが、松井家にとつては、初婚でもあり、お姿はお美しい方だが、

なんつといつてもお年増である。さきざきのご返事が心配なので、よく考えてご返事したほうがいいと思う……。」

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

・・・とはいっても

「章之様もすでに二十五歳になられるし、家督相続も控え、結婚を急いでおられる。

ほかに適当な方もいない。

なにより、上様のご養女になつてもおかしくない方だし、八代へ輿入れになるときは、規模も盛大になるだろう。

章之様だつて、そんなに美男子ではないし、お年のことさえ目をつむれば、お美しい方である。

藩主様のご意向なら、先々章之様のためにも、よいことは間違いないので、ぜひお受けすることにしませう・・・。」

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

松井章之像 明治26年(1893) 松井文庫所蔵



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

こうして、琴姫が八代へ輿入れすることに

天保九年(一八三八)

閏四月九日

琴姫、江戸を出発

五月二十七日

熊本花畑屋敷へ到着

六月十五日

八代へ出発

六月十六日

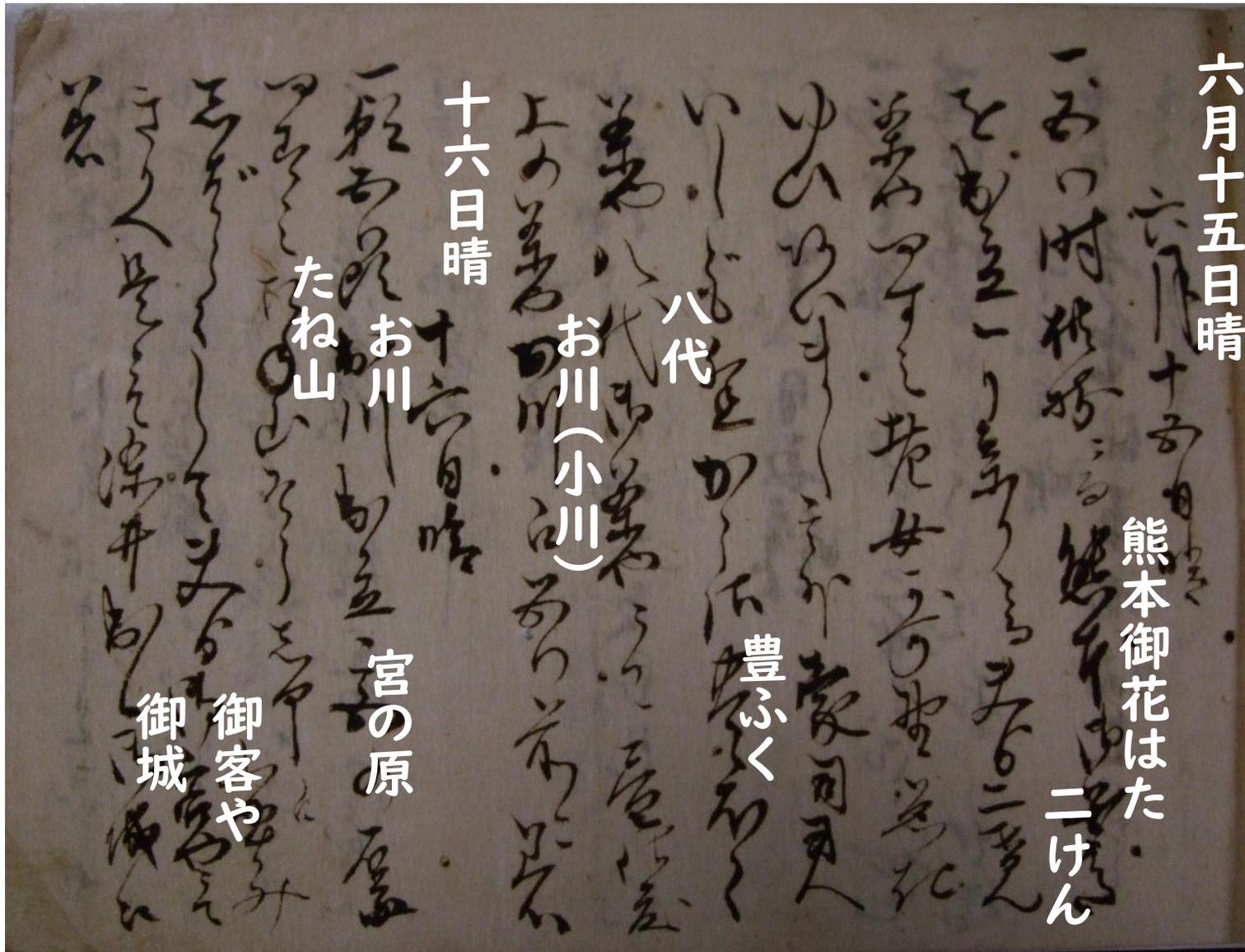
八代へ到着、城下の御客屋へ立ち寄った後、行列を整えて、八代城へ入城。

八月十三日

八代城で婚礼

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

6月15日、八代へ出発した日の琴姫の日記



天保9年(1838)琴夫人の婚礼行列は、薩摩街道を
通って、八代城へ入った。

松浜軒

八代城
本丸

八代宮の
大鳥居の
あたり

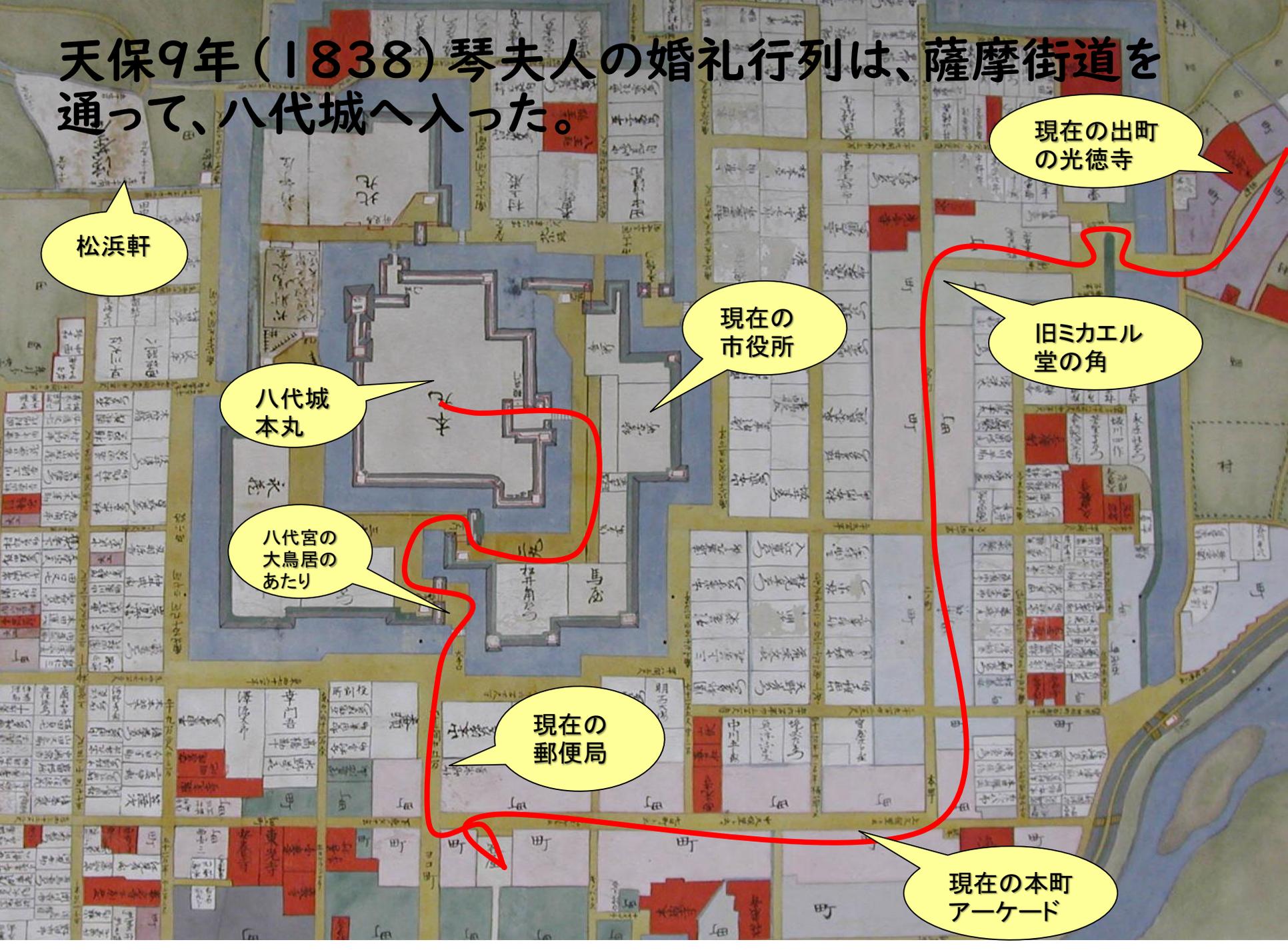
現在の
郵便局

現在の
市役所

現在の出町
の光徳寺

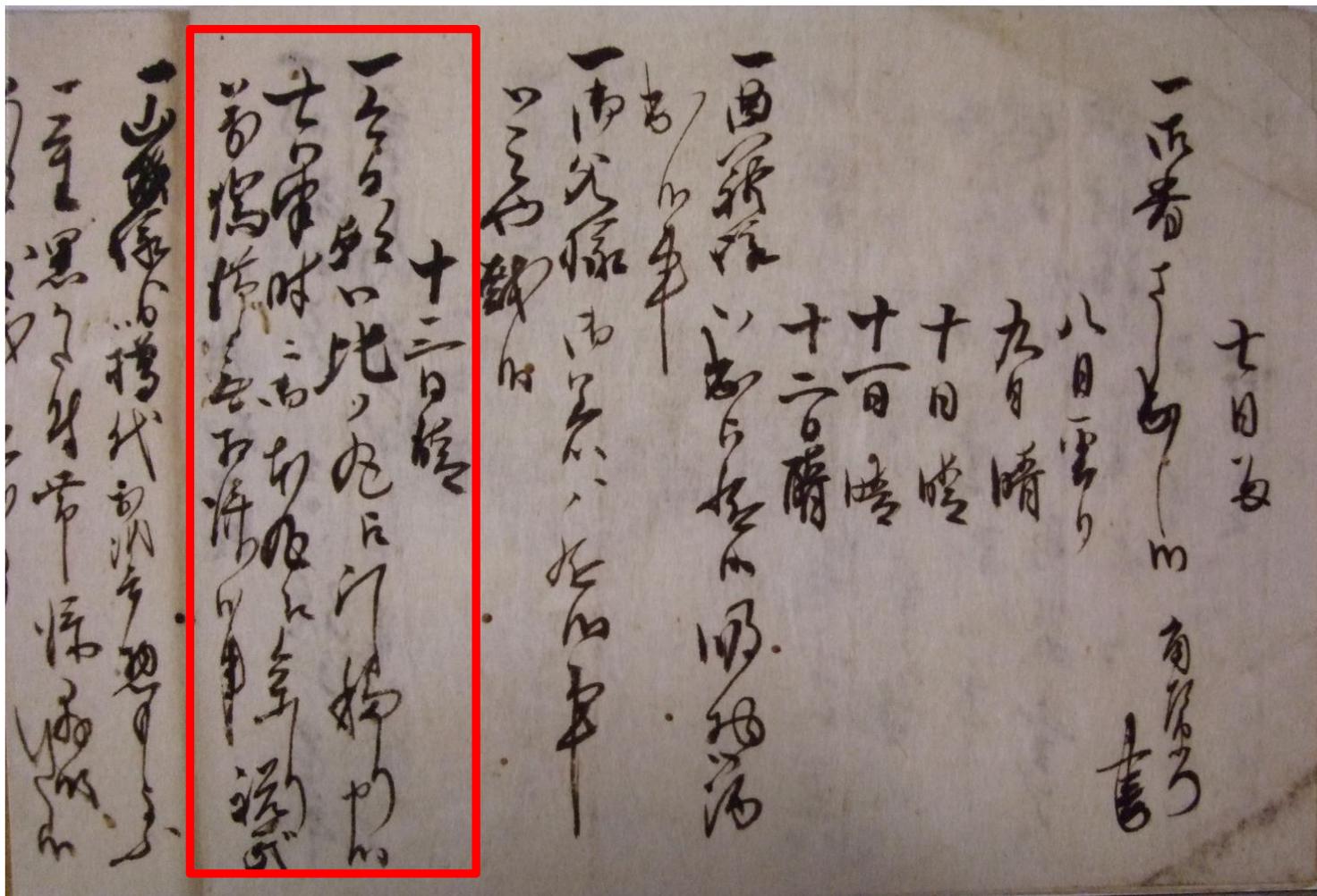
旧ミカエル
堂の角

現在の本町
アーケード



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

8月13日、八代城で婚礼をした日の琴姫の日記



十三日晴

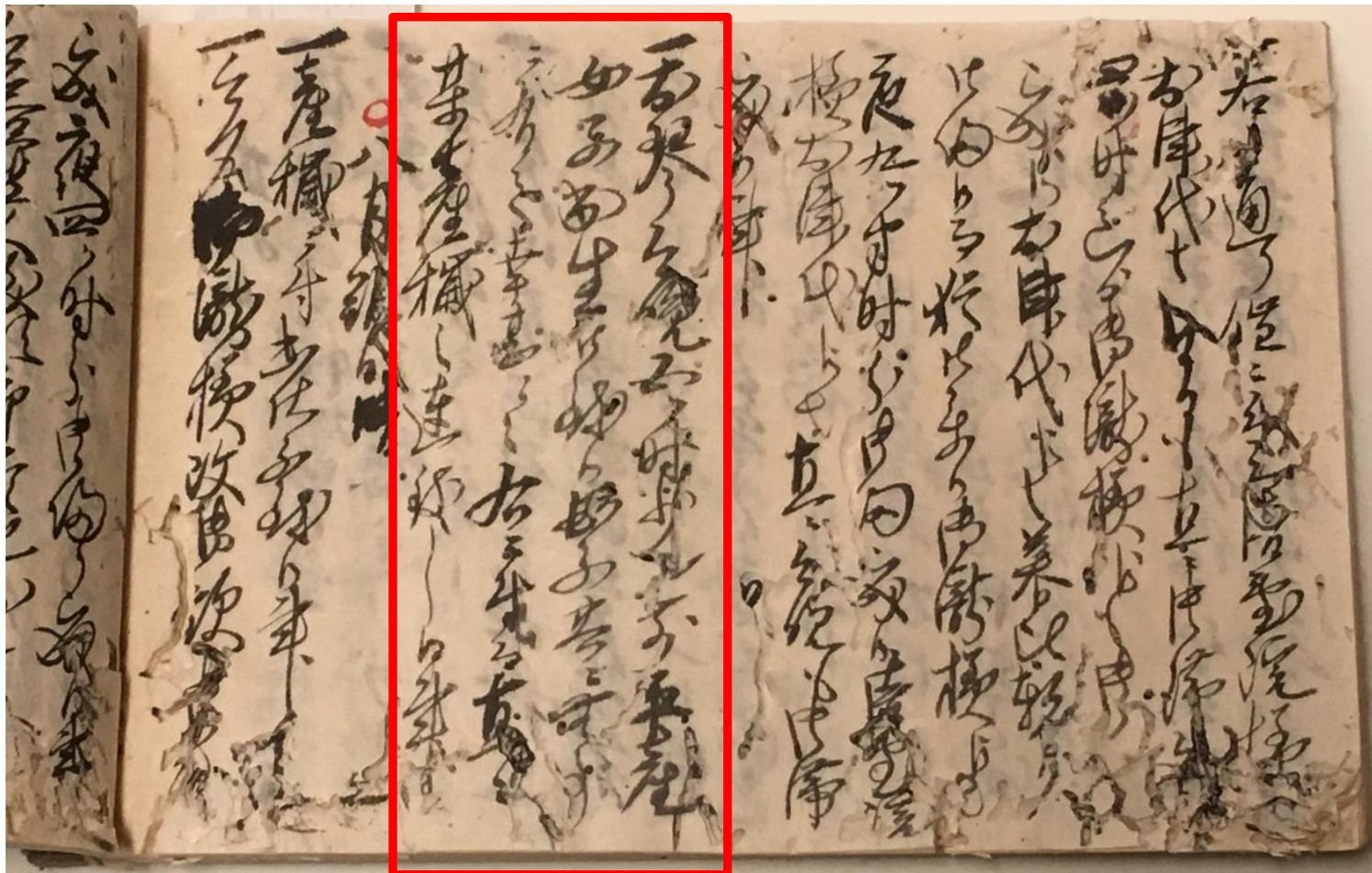
一 今日朝御北ノ丸江引移り申候

七時半時にて本丸江参り祝義

萬端滞無相濟候事

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

じつは章之も日記魔だった！ 琴が長女を出産した日の日記



一 お琴今晚五時にてお平産
女子出生に到り 母子共ニ無事
に有之幸甚に候 右にて直々
某産褥之達致し候事

■天保10年(1839)7月晦日の日記(八代古文書の会所蔵)

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

章之の日記によれば・・・

■天保12年(1841)4月7日

江戸へ向けて八代を出発…。お琴臨月につき熊本より医者呼び寄せる…。

■天保12年4月13日

鶴崎にて、明日熊本へ向かう一行にお琴への文をことづけた…。

■天保13年(1842)3月3日

お常の初雛の祝い無事済んだ。今日も家中、町家などより大勢雛を拝見に来た…。

■天保13年3月14日

今夕北の丸にツツジが咲き出したので、お琴と子どもたちと見物に行った…。

■天保13年3月15日

お琴と子どもたちと松浜軒へ、それから浜へ行った…。

家族思いのお殿様だったのですね。

など家族のことがよく記されている。

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

琴姫のその後・・・

■天保十年(一八三九)
長女・加屋誕生

■天保十二年(一八四一)
次女・恒誕生

■天保十四年(一八四三)
長男・盈之誕生

■弘化二年(一八四五)
次男・綏之誕生

■弘化三年(一八四六)
三女・吉誕生(早世)

■嘉永元年(一八四八)

四月二十二日 四女・直誕生

■同年

五月十六日没 享年三十六歳

法名「貞操院賢室慈誠」

章之・琴の夫婦仲はよかったようである。
が、4女出産の産後の肥立ちが悪く、琴は亡く
なってしまう。法名にその人柄がしのばれる。

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

琴姫(貞操院)の所用品が数多く残っている。



緋羅紗地九曜紋長柄傘袋、茶弁当覆、挟箱覆
琴の婚礼行列の道具には九曜紋がつけられていた



古今雛 天保十年(1839)3月京麩屋町幾久屋より購入
琴が八代に来て、初めて迎える雛の節句時に5組購入



桜樹文青貝机
箱に「貞操院御持こし」の墨書



定家文庫(お化粧道具入れ)
「江戸より持ち越し」「貞操院様御ゆつり」と記した包み紙に入る。

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

九曜紋付小袖



松井家の女性
たちはどんな
着物を着てい
たのでしょうか。

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

女性たちの衣装類

松井文庫には女性たちの衣装も数多く残っている。



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

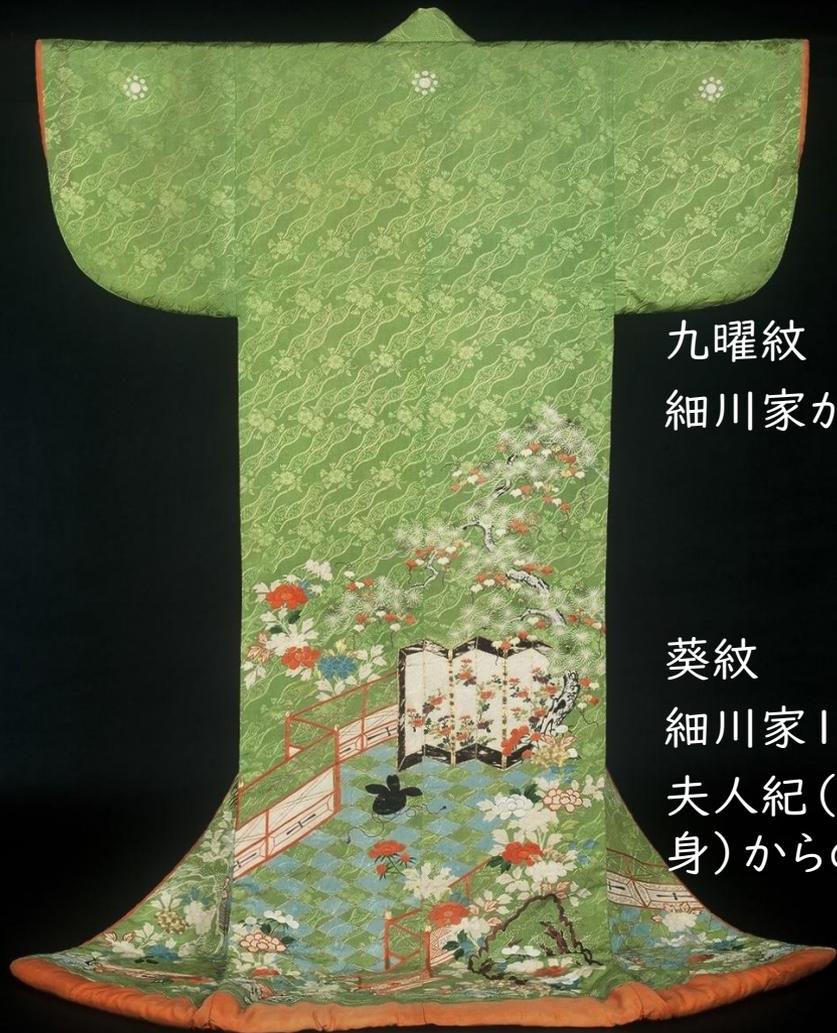
女性たちの衣装類

材質・仕立も多様な種類が残っている。



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

紋付・御所解・中模様



九曜紋
細川家からの拝領か

葵紋
細川家10代藩主
夫人紀(一橋家出
身)からの拝領か



未展示品

杏葉紋(鍋島家)
細川家14代護久夫
人宏(鍋島家出身)
からの拝領か

杏葉紋(鍋島家)



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

御所解・惣模様

古典文学や謡曲にもとづくものを「御所解文様」とよび、武家女性に好まれた



未展示品

謡曲「通小町」



謡曲「枕慈童」



謡曲「張良」



謡曲「小督」

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

打掛・惣模様

花卉文様と有職文様を交互に配したものも好まれた



未展示品



5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

立木模様

立ち上がる木や植物をデザインしたもの

未展示品



薔薇

橘



松竹梅

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

裾模様 公家風模様

未展示品



裾模様



花車文様



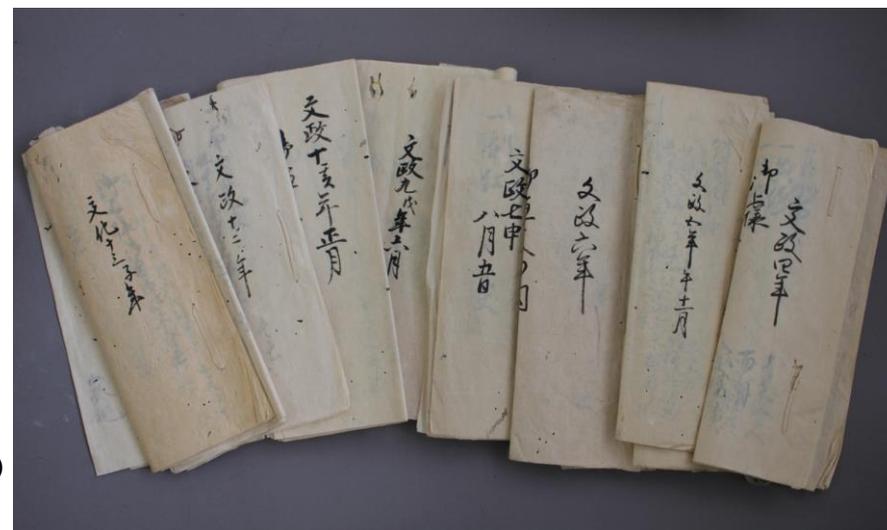
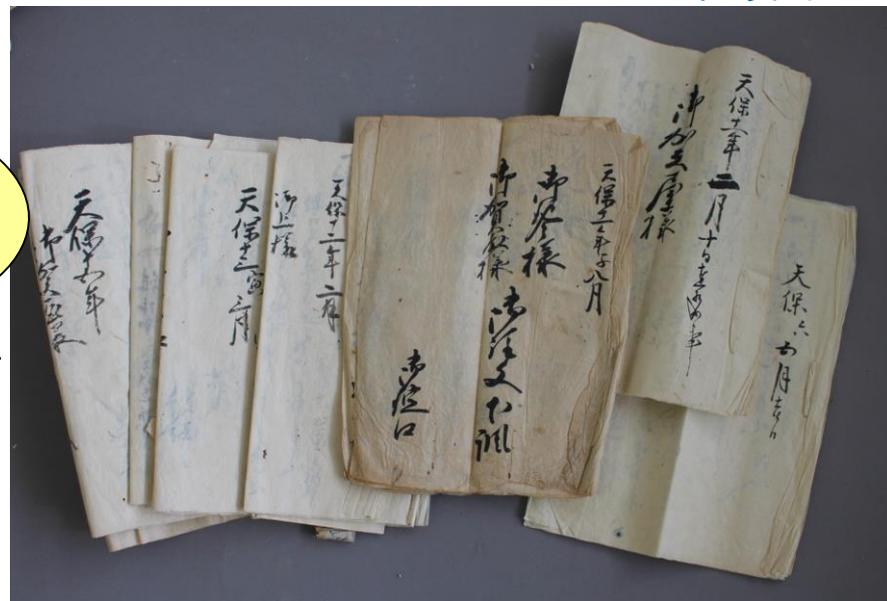
桜樹文様

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)

未展示品



衣装注文の記録です。最近発見しました。

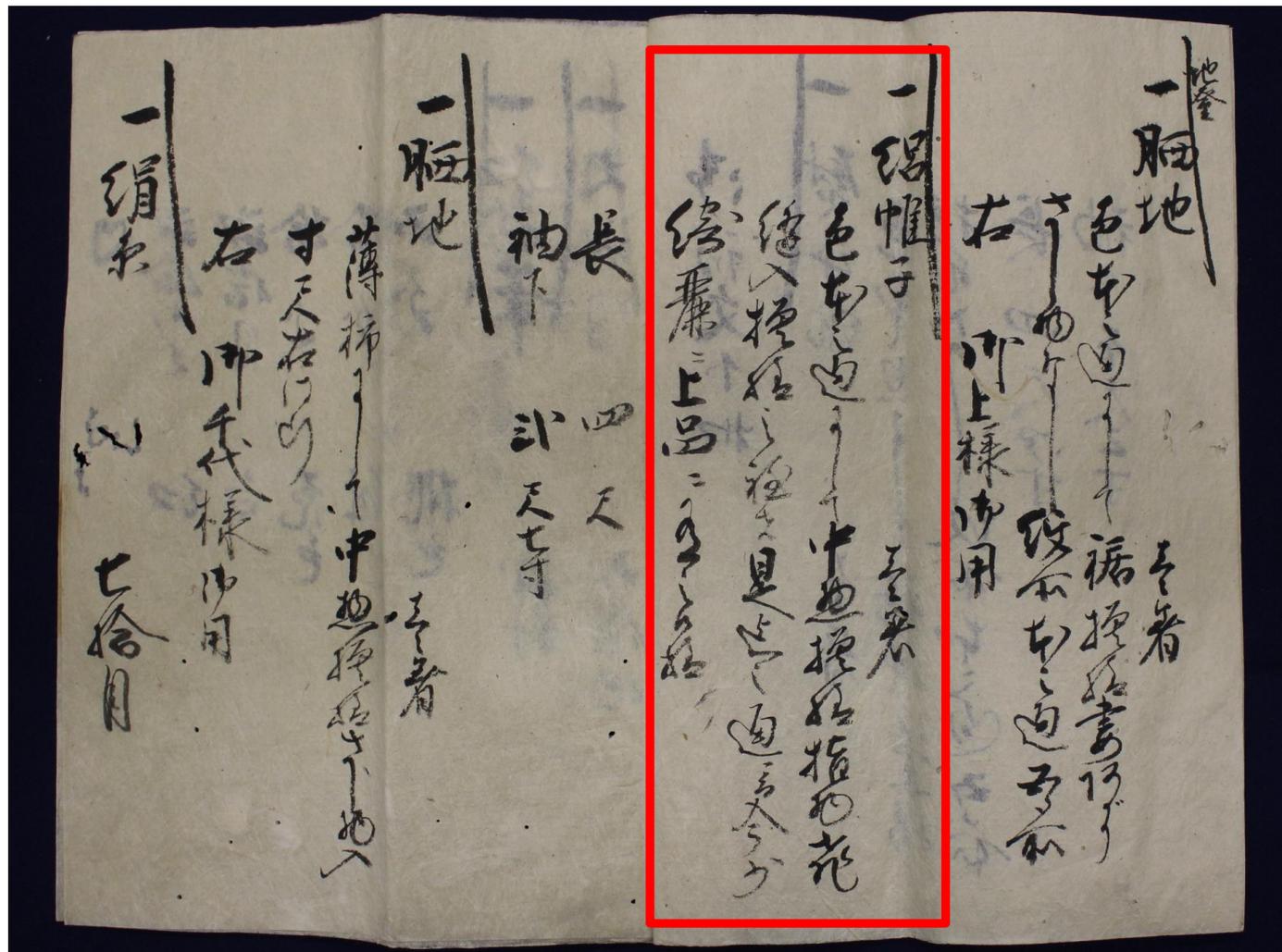


昨年度の収蔵品整理作業時に確認

御注文下控帳 松井文庫所蔵

文化13年(1816)、15年(1818)、文政4～13年(1821～30)、
天保6年(1835)、11年(1840)～弘化5年(1848)、
安政2年(1855)、3年(1858)、嘉永元年(1848)、2年(1849)
千代(督之娘)、琴(章之夫人)、加屋(章之娘)らの衣装等注文帳

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)



一 紹帷子 壹着

色本之通にして中惣模様指物飛

縫入模様之極者是迄之通にて今少

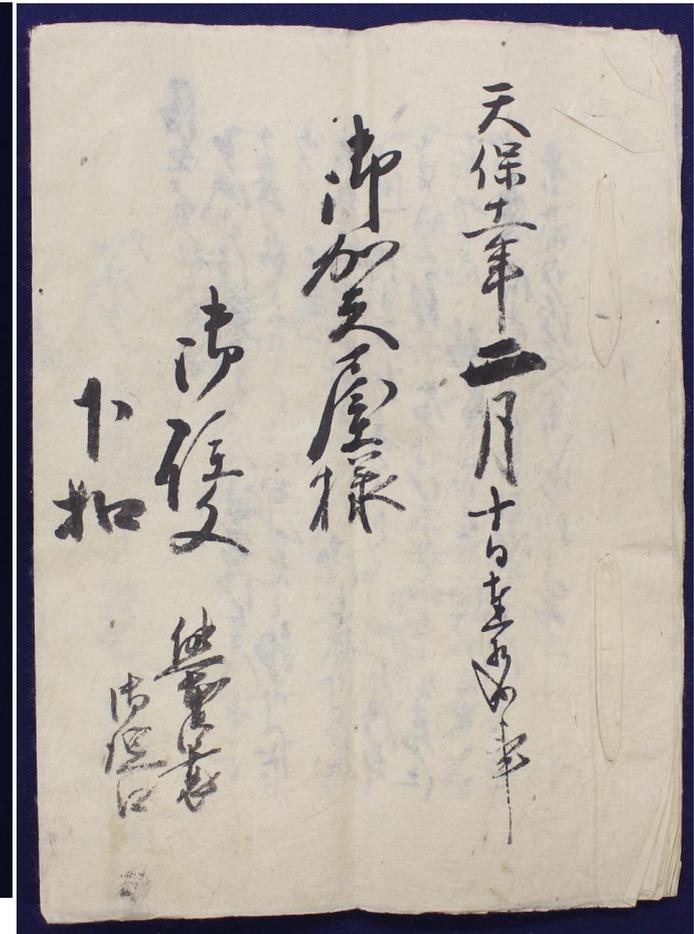
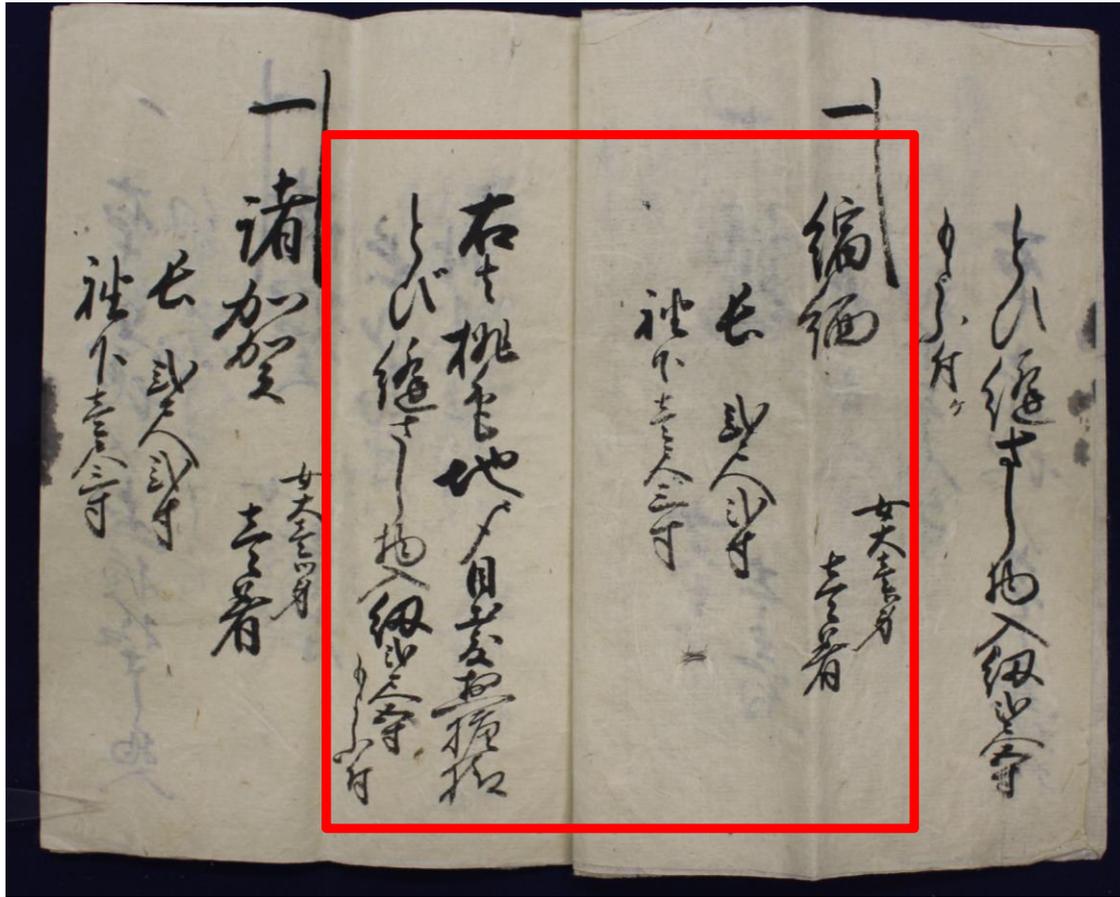
綺麗ニ上品に有之候様

文政10年(1827)御注文下扣

千代(督之娘、1818~38)の衣装注文

未展示品

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)



天保11年(1840)御賀屋様御注文下扣
加屋(章之娘、1839~91)の衣装注文

未展示品

一縮緬 女大褌つ身

着着

長 式尺三寸

袖下 式尺三寸

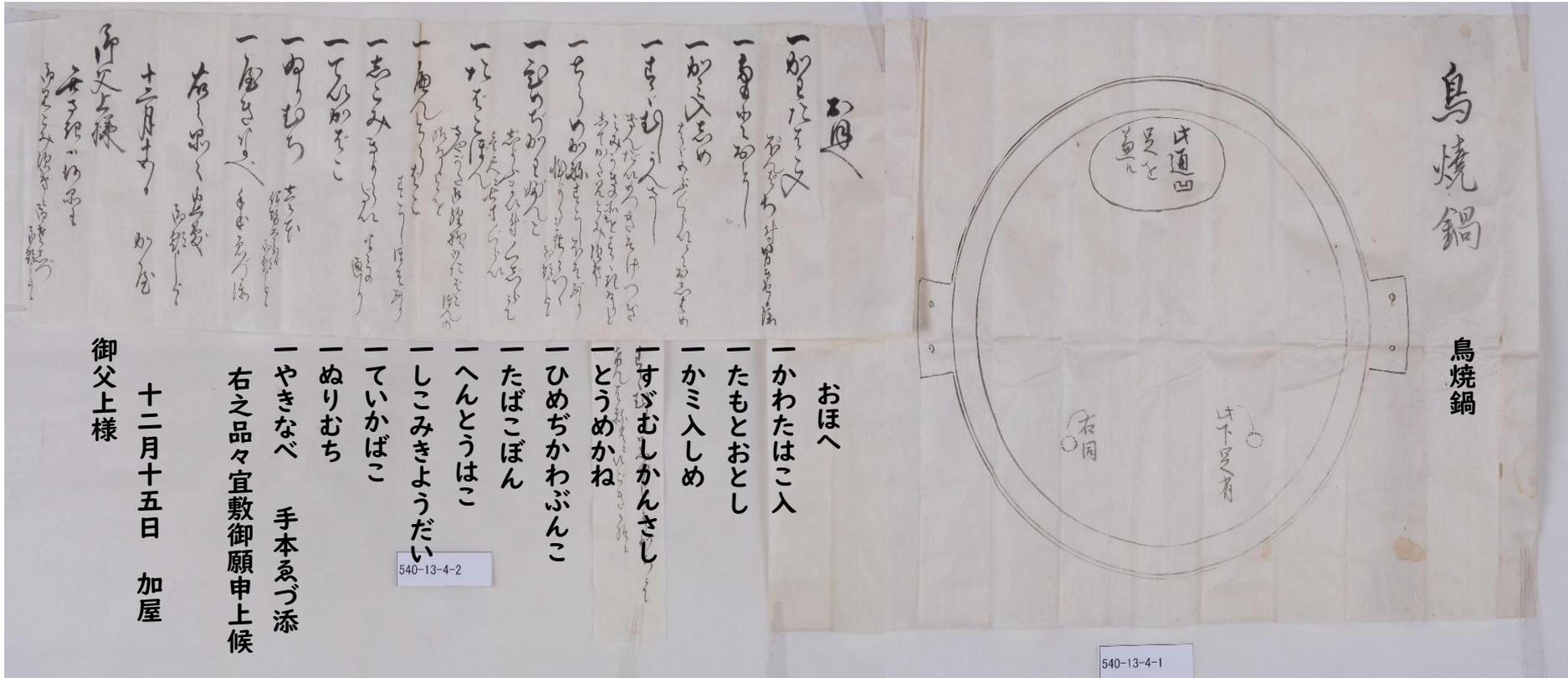
右者 桃色地にして

目出度 惣模様

とび縫さし物入

紐 式尺五寸もよふ付

5. 松井家の人々 (18世紀後半～19世紀前半)



昨年度の松井文庫所蔵古文書調査時に確認

加屋(章之娘)書状 父上宛 安政3年(1856)、章之江戸参府前のものか?

父親に「鍋を買って来て、見本の通りよ」と頼む娘。

父とはいえ、八代城主です。さすがお姫さま!

未展示品

婚礼にみる武家文化の諸相

まとめ



松井家には、江戸時代の武家文化の諸相を知るうえで豊富な作品・資料が残っている。



当時のすぐれた工芸品を多数みることができる。



松井家の人々の身近な側面を知ることができる。古文書とあわせて分析することでさらに生き生きとした当時の様子がわかる。**きわめて貴重な作品・資料群といえる。**

これらは八代のたからもの。
たいせつに守っていききたいものです。



加茂人形の七福神(おきあがりこぼし)

松井文庫所蔵 未展示

貞操院所用 高さ2.5cm